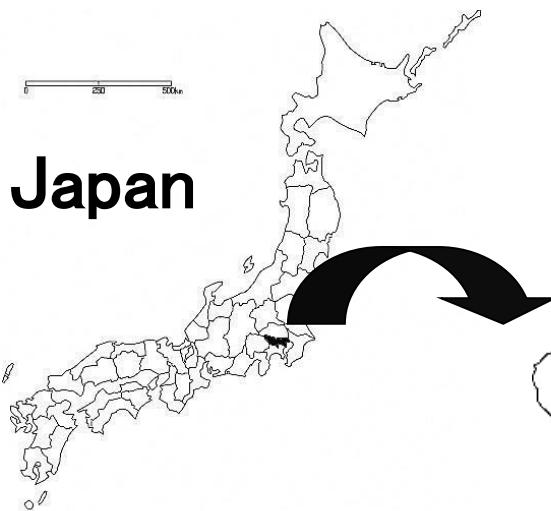


# 都市における農を活かしたまちづくり —都市農業のとりくみ—



Japan

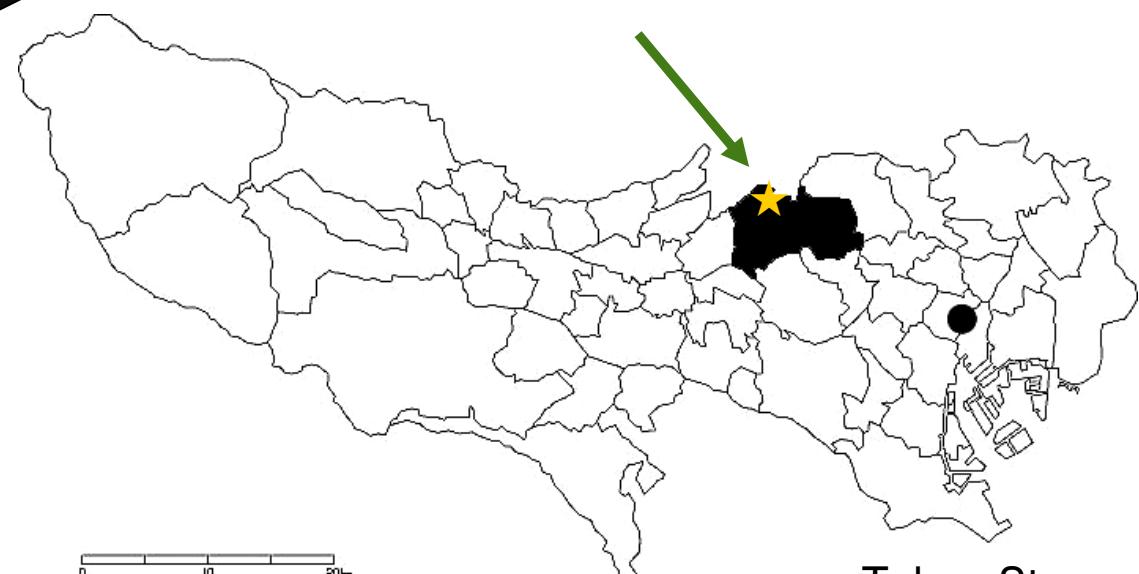
Tokyo

東京都農地面積 8000ha

Nerima

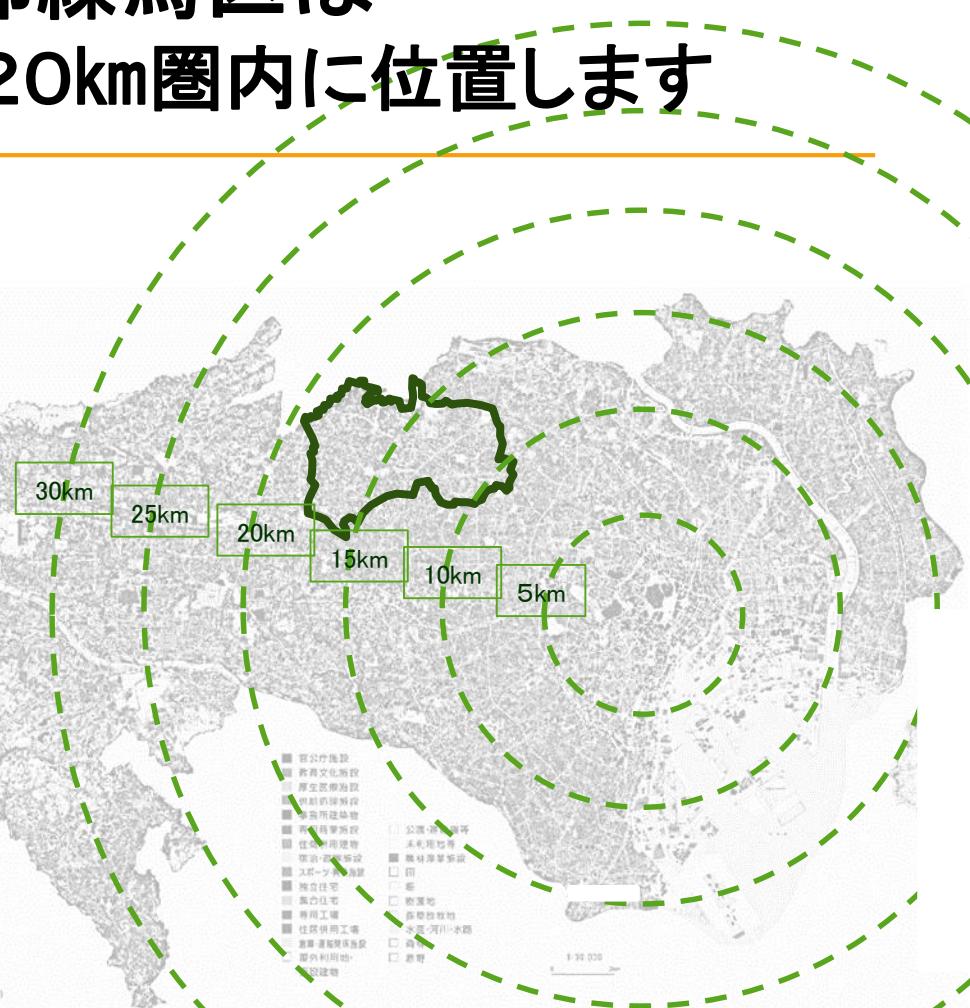
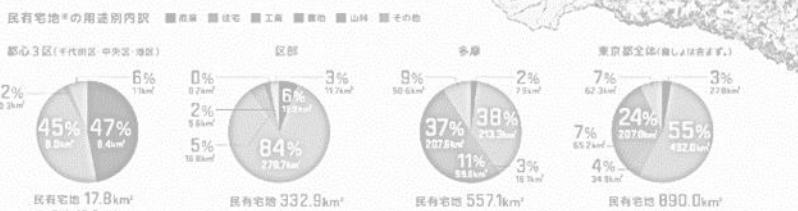
白石農園 農地面積 約1.4ha

練馬区農地面積 約200ha



1600年代(江戸時代初期)から農業を継続

# 東京都練馬区は 都心から10km～20km圏内に位置します



出典:東京都市白書(2015年度版)

# 白石農園の事業内容

---

## ●野菜の生産販売

年間を通じて約100種類の野菜を生産しスーパーとの契約・直売所・直接販売・学校給食等で販売ブルーベリーの摘み取り園を開設

## ●農業体験農園 大泉風のがっこう

野菜作りのカルチャースクールとして125家族を受け入れ運営

## ●農業体験(食育)をすすめる

地域の小中学生に農業体験を指導・練馬大根の生産体験や社会見学・職場体験等年間1000人あまりを受け入れている

## ●精神障害者の社会適応訓練事業所

社会復帰訓練として精神障害者の受け入れ

## ●畠のレストラン「La毛利」

# 多品目・少量生産・地産地消



# ブルーベリー観光摘み取り園



# 農業体験農園(大泉 風のがっこう)は 野菜づくりのカルチャースクール



# 小学校の農業体験



# 農園に隣接したレストラン



# 都市農業(練馬区)の歴史

---

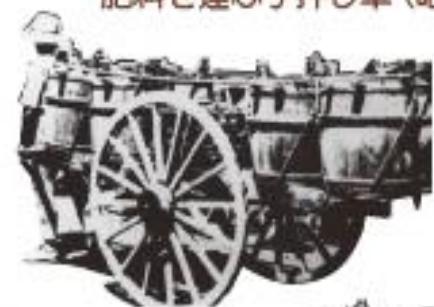
- ・1600年代、日本の首都が江戸に移り人口が急激に増加
- ・江戸近郊に農家も増え江戸に食料を供給(市場経済が始まる)
- ・1950年代まで、東京の至る所で農業が営まれていた
- ・1960年代、東京オリンピックを契機に都市化が進む
- ・1970年代から高度経済成長で人口の東京一極集中が加速
- ・1991年、保全する農地と宅地化する農地に分離  
保全する農地は税制・振興施策等行政支援
- ・2000年代、社会変化とともに都市農業の価値が再認識
- ・2015年都市農業振興基本法が制定される

# 江戸時代から近年まで、 農産物を都心の市場まで運び 帰りに下肥(人糞)を積んで帰ってきた

## 練馬を通る清戸道



肥料を運ぶ手押し車（昭和10年）



馬の背、荷車や大八車に野菜を積んで市場まで清戸道を行き、帰りは下肥を積んで帰ってきました。



(出典)  
まちづくり情報誌こも  
れび第56号  
高松編 平成27  
(2015)年10月  
発行:みどりの  
まちづくりセンター



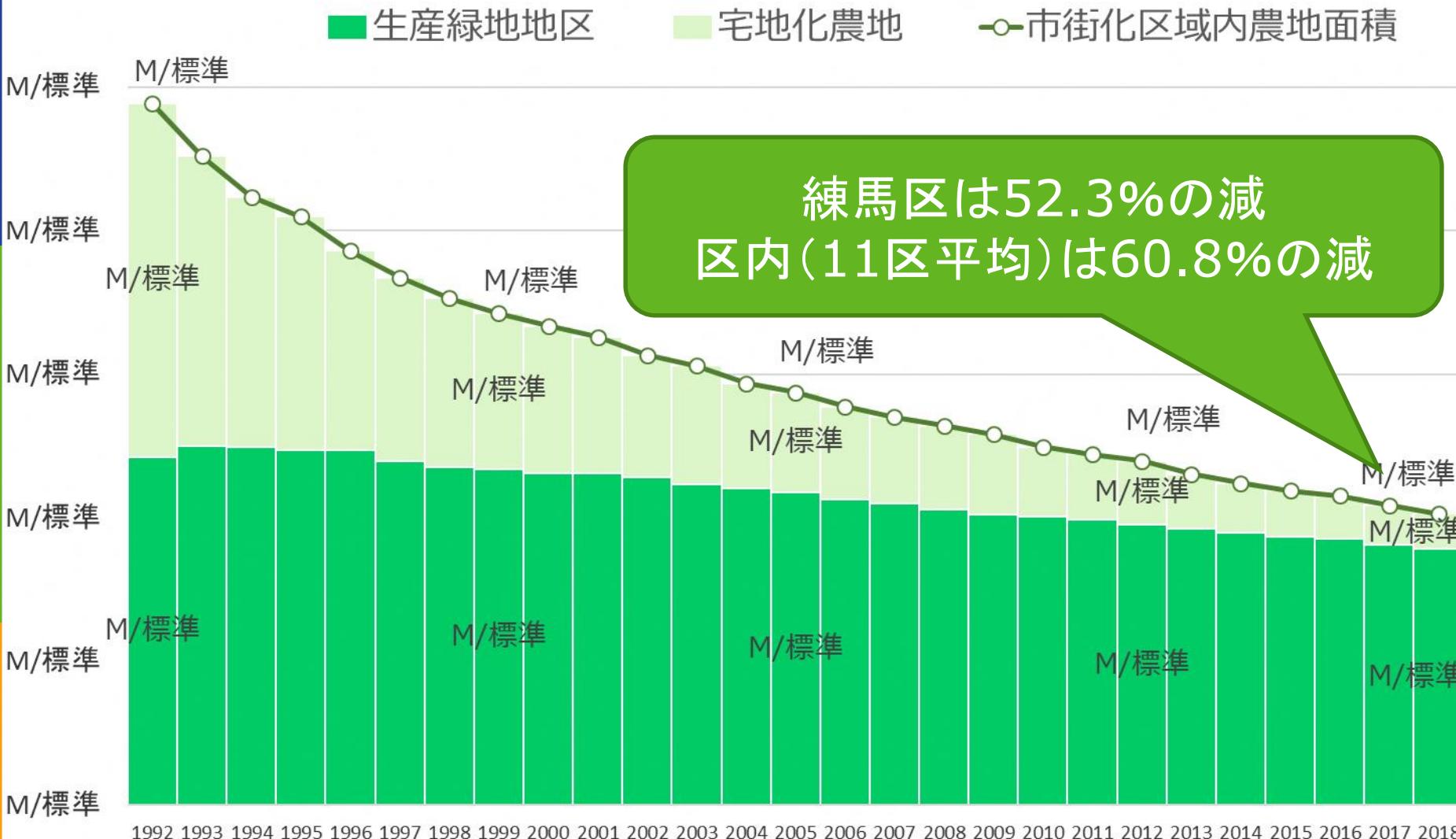
1940年代の練馬



2000年代の練馬



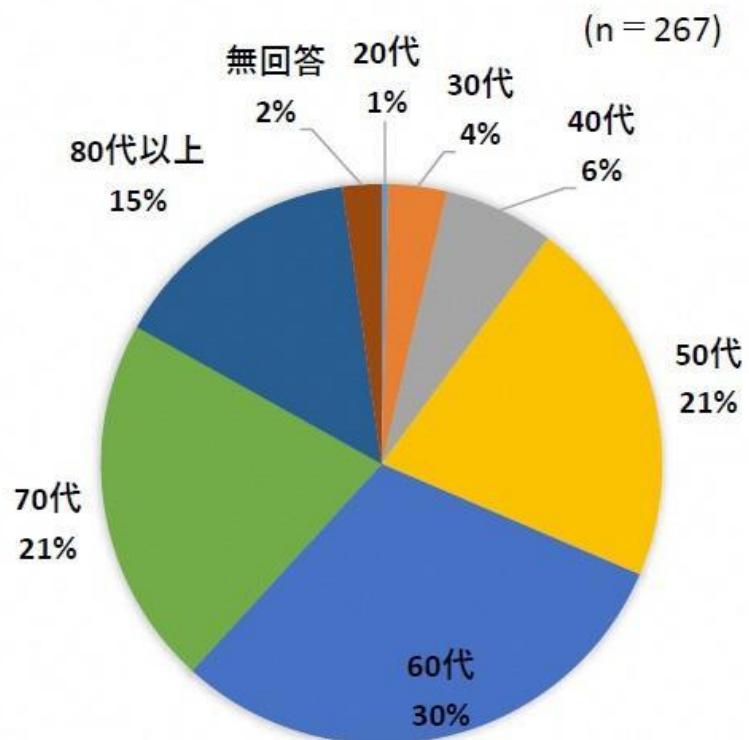
# 区内農地面積の推移



【市街化区域内農地面積】各年1月1日現在課税上農地として評価されている面積

【生産緑地地区面積】各年の都市計画の公示に基づく数値 【宅地化農地】市街化区域内農地面積 - 生産緑地地区面積

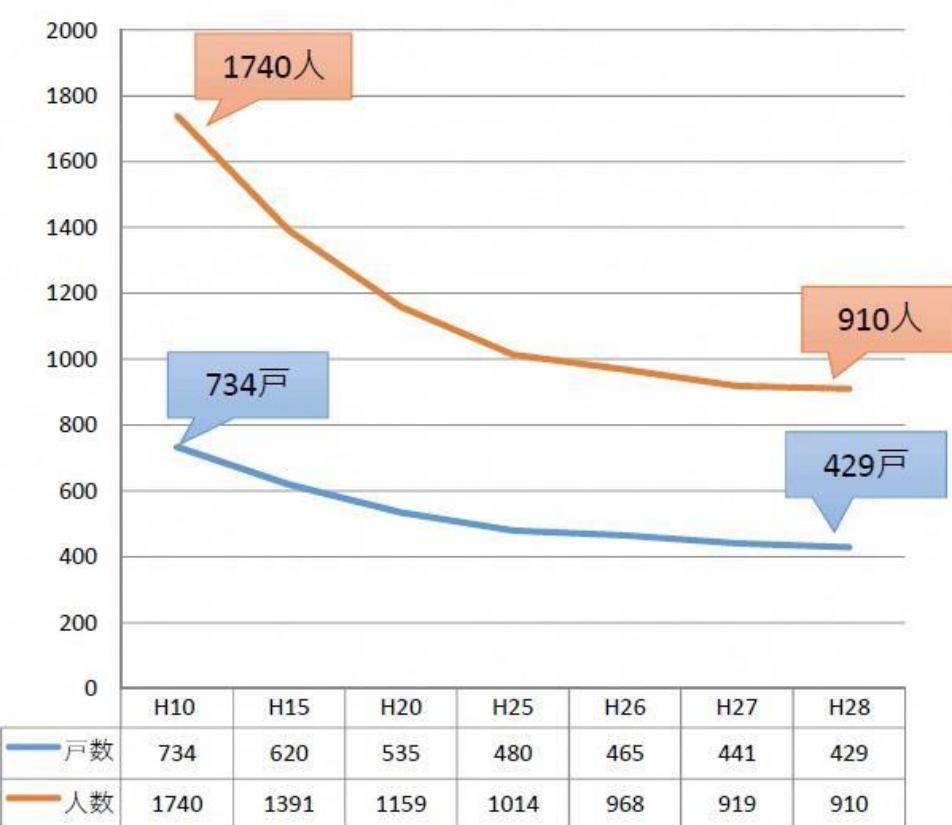
## 農作業の主な担い手の年代



平成26年度練馬区農業者意向調査

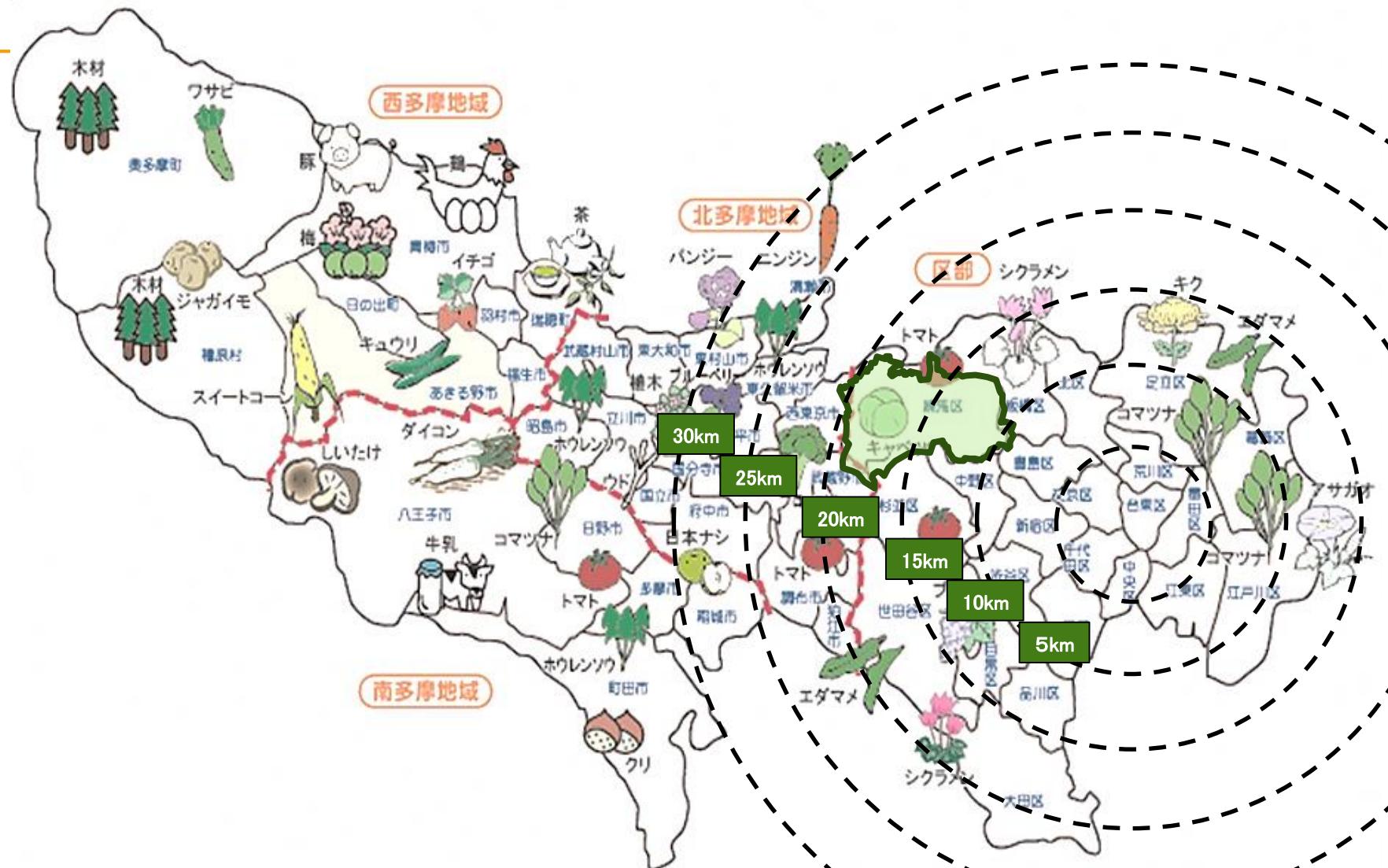
**【参考】**  
農業者平均年齢  
練馬区：63.5歳 東京都：63.9歳  
(出展：東京都農業会議H29.3)

## 農家戸数・農業従事者数の推移



練馬区農業経営実態調査

# 東京都の農作物



# 東京都の農業施策(2019年度予算 85億円)

目標「都市と共に存し、都民生活に貢献する力強い東京農業」

---

担い手の確保・育成と力強い農業経営の展開 25億円

農地保全と多面的機能の発揮 9億円

持続可能な農業生産と地産地消の推進 14億円

その他 農業関連の都有施設の整備等 37億円

# 練馬区内にはJA直売所4件・ 100箇所を越える農家の直売所があります



直売所

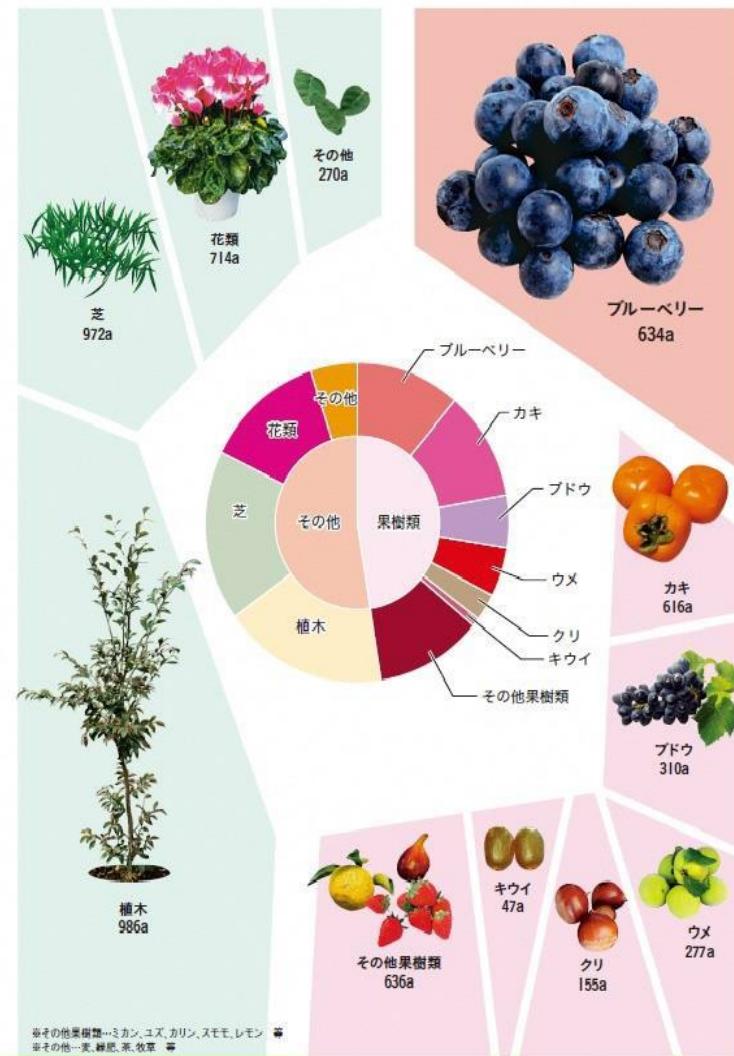
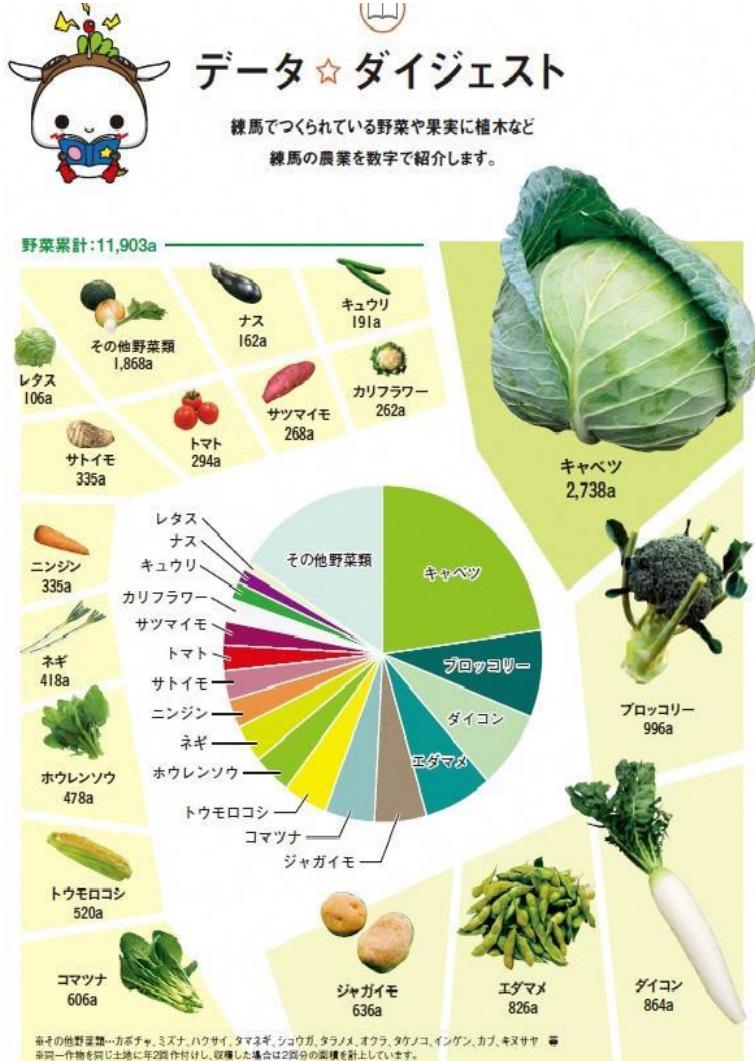


JA東京あおばの農産物販売所



農業体験農園

# 練馬の農産物(野菜・果樹・花・植木など)



# 白石農園周辺の農地分布

